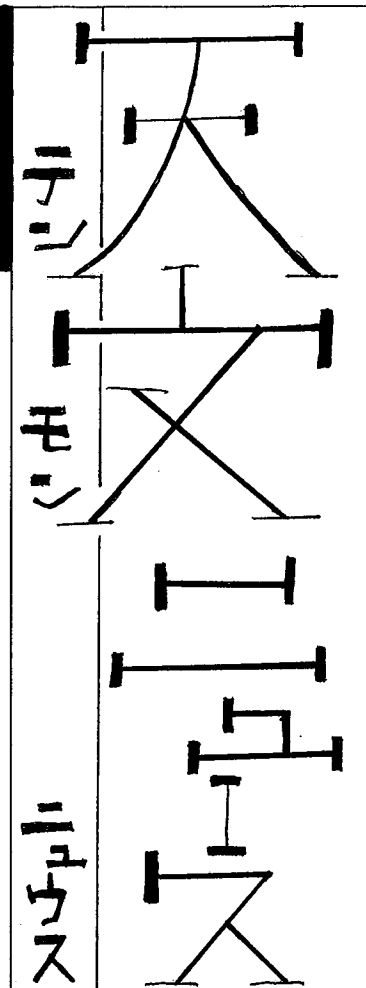


水星観測



みなさん、水星を見ませんか？

みなさん、十一月下旬に太陽系の中で一番太陽に近い惑星、水星が見つけたようになります！ですからみなさんも、水星を見ませんか？

まず始めに、なぜ見やすくなるのかを説明します。普段、水星は太陽に一番近いところを周っているため、見るのは難しく、危険も生じます。ですが、東方最大離角と西方最大離角という、水星が太陽の東、ないしは西のほうに離れた時に、簡単かつ安全に見る事が出来ます。そして今回は、十一月二十八日が西方最大離角になります。前後一週間、十一月二十二日頃から十二月七日頃の明け方が狙い目です。

観測方法は双眼鏡がおすすです。また、方角の分かる物(正しい方が分かればなんでもよいです。)を持ち、防寒対策(冬の日の出前なので相当冷ええます。)をして、日の出三十分前(六時半前後)に東の方向に視覚を遮る物がない場所で見測してください。そして、真東から三十度前後南より、かつ地平線から十度上(こぶし一つ分くらい)のあたりに狙いを付けて双眼鏡で見てください。

きつと水星を見つけれられるはずですが、そしてよく見ると月と同じように欠けに見える事でしょう。

ニュース

最後に、水星を見る時の注意点を説明します。絶対に守ってください。双眼鏡で太陽を見ないでください。もし見た場合、目が焼けてしまいます。ということでもみなさん、色々なことに注意しつつ水星を見ませんか？

日食とは、月が太陽と地球との間に来て太陽光線を遮り、太陽の一部または全部が見えなくなる現象のことを言います。日食には太陽が全て隠される皆既日食、太陽がリング状に欠けて見える金環日食、そして太陽の一部が隠される部分日食の三種類があります。また世界全体で日食は最低でも年に二回、最多で五回おこることもあるそうです。

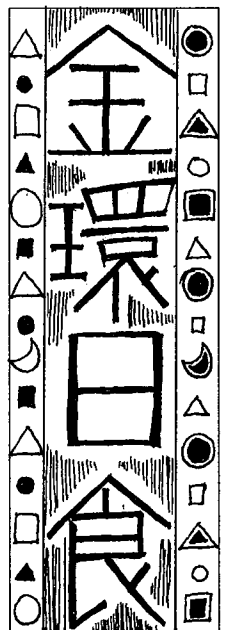
第二号 天文部広報課



ふたご座流星群って何？
みなさんは三大流星群のことを聞いたことがありますか？毎年ほぼ安定して、多くの流星が流れる『しぶんぎ座流星群』『ペルセウス座流星群』『ふたご座流星群』は、『三大流星群』と呼ばれます。

そう、ふたご座流星群は三大流星群のひとつです。条件の良いときに熟練した観測者が観測すると、一時間に百個程度の流星を数えることは珍しくはありません。

今年七月に皆既日食が起りました。また、十二月二十六日にはアラビア半島、インド、東南アジアで金環日食が起ります。日本国内では、今年二度目の部分日食を見ることが出来ます。今回は、東海地方や北陸地方よりも東の場所です。



は、太陽が欠けながら沈み、西日本では部分日食の全過程を見ることが出来ます。神奈川県では十一時二十九分に欠け始め、十四時十四分に最大に欠けます。そして、十七時五分に日食は終わります。

の数が減る傾向にあります。

今回は月明かりが暗い流星を隠してしまつたため、月の影響がない年に比べると、見ることのできる流星の数は減つてしまつた、観測条件はあまり良いとは言えません。しかし、月明かりに負けないような明るい流星が出現することもあります。期待しましょう。今年の流星出現数予想は一時間に二十個程度だろうといわれています。気楽に流星を楽しんでください。

また、一月三日から四日の未明にかけて『しぶんぎ座流星群』があります。今月の流星群と比べると月明かりは少なく、より多くの流星を見ることができ、期待が高まります！

寒い時期ではありますが、防寒対策をしっかりとって流星に願いをかけてはどうでしょうか？

日食を観測するときの注意点は、観測するときには必ず日食観察グラスを使ってください。これらは目に有害な光線を弱める素材でできています。そのため他の物で代用するのはやめましょう。

今年最後の天体ショー。西に沈む夕日を眺めてみてくださいね。

編集後記

第二号目の天文ニュースをこまめで読んでくださりありがとうございます。タイムリな話を二か月に一回、情報誌という形で発信していくことになりました。来月もお楽しみください！